

学習指導案の形式（例） 中学校技術・家庭科

第○学年○組 技術・家庭科（○○分野） 学習指導案
 平成○年○月○日（○）第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

1 題材名 ○○○○○○○○

◇まとまりをもった教育内容の単位の名称を記述する。

2 題材の目標

- 「生活や技術への関心・意欲・態度」に関する目標（例：～しようとする。）
- 「生活を工夫し創造する能力」に関する目標（例：～工夫している。）
- 「生活の技能」に関する目標（例：～できる。）
- 「生活や技術についての知識・理解」に関する目標（例：～理解している。）

◇学習指導要領で示された目標及び内容を踏まえて設定する。
 （必ずしもすべての観点を踏まえた目標を記入するというわけではない）
 ◇生徒の立場で書く。

3 題材の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
例：～しようとしている。	例：～工夫している。	例：～身に付けている。	例：～について理解している。
◇評価規準の設定に当たっては、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭】』（平成23年11月 国立教育政策研究所）等を参考にして、適切に設定することが望ましい。			

4 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	主な学習活動	評価規準及び評価方法			
			生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
一	1	○主な学習活動	・～しようとしている。			
	2					
二	1					

◇生徒の立場で簡潔に書く。

◇学習活動に応じて、評価規準を具体的に書く。
 ◇四つの評価の観点がバランスよく評価できるよう、評価時期も考えて位置づける。
 ◇評価方法も合わせて書く。
 ◇毎時間の評価の観点は、一つか二つ程度に絞る。
 ◇生徒の立場で書く。

5 指導上の立場

- 題材観
- 生徒観
- 指導観
- 研究主題との関連

◇指導者の立場で書く。

◇題材観……………取り上げる題材の内容、既習事項との関連、今後の展開、その題材を取り上げる意義、題材・教材と生徒の関係など。
 ◇生徒観……………生徒の技術・家庭科における興味・関心・意欲、題材に関する知識・技能、既習事項の定着度など、前題材までの実態や本題材で育てたい望ましい生徒像
 ◇指導観……………指導・支援の力点、学習形態、仮説、その他の配慮事項など、生徒のよさや可能性を生かすような工夫や手だて。
 ◇研究主題との関連……研究主題の説明を簡潔に記述し、研究主題と授業研究における指導仮説を明確にして書く。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇題材の指導計画に即して、本時の学習活動の目標を具体的に示す。
- ◇題材の目標や評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

例：～をすることができる。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
<p>1</p> <p>◇生徒の立場で書く。</p>	<p>○ ◇学習活動に対して主となる指導・支援を書く。</p> <p>◇指導者の立場で書く。</p>	<p>◇生徒の立場で書く。</p>
<p>2</p> <p>◇導入・展開・終末の学習過程に沿って生徒の学習活動を書く。</p> <p>◇一人一人の生徒が何をめあてに活動すればよいのかをつかめるように具体的に書く。</p> <p>◇岡山型学習指導のスタンダードの単位時間の授業5（ファイブ）を参考にする。</p>	<p>めあて</p> <p>○ ◇生徒の目的意識のまとめや活動目標など、本時のめあてを示す。</p> <p>◇本時で何をどのように学ぶかの見通しがもてるようにする。</p> <p>○例：～することで、～できるようにする。</p> <p>◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、工夫、手だてなどについて留意すべきことを具体的に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される生徒の反応 ・生徒一人一人の学習進度に応じた手だて ・生徒が主体的に、学習を進めるための手だて ・資料提示の機会や方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等 <p>◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p>	<p>◇本時の目標との整合を図る。評価の場面は1、2か所。</p> <p>◇評価規準を具体的に書く。</p> <p>◇評価の観点や方法を書く。〔評価の観点〕（評価方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノートの記述 ・ワークシートの記述 等
<p>3</p>	<p>○例：～を一緒に確認することで、～できるようにする。</p> <p>◇「努力を要する」状況（C）と判断される場合における生徒への手だての例を示す。</p>	<p>○例：～を理解している。〔知識・理解〕（ノートの記述）</p>
<p>4</p> <p>5</p>	<p>まとめ</p> <p>◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、めあてと対応したまとめの文章表現の例を示す。</p> <p>◇まとめは、本時の目標や学習内容に応じて柔軟に位置づける。</p>	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿を具体的に書く。